

国語科学習指導案

令和6年5月28日(火)6校時

3年A組 40名

指導者 釘宮 里枝

1 単元名 私は、〇案を推薦します！

2 単元設定の理由

(1) 教材について

・言語活動は、「二つの案で迷っている相手に対して、より確実に効果的な案はどちらかを選択し『推薦文』を書く」と設定する。第3学年では、多様な考えを持っている人がいることを想定するとともに、読み手となる相手を説得することが求められる。本活動も、異なる立場がいることを前提としながら、迷っている読み手を説得することを求めるものである。

・題材は、人口増加のために導入すべき案を「単身者」と「ファミリー」という支援の対象者に絞って比較するというものである。現在、多くの市町村が抱える人口減少についての施策案であるため、実施した例も含め、さまざまな情報が収集できると考えられる。

・行政の施策として取り入れることを想定しているため、より確実に効果的な案を導入する必要があるため、その確実性と効果の高さを、根拠を示して証明する必要がある題材である。

(2) 生徒について

・昨年度の「話すこと」の授業では、「中学生は『日本のコロナ対策』をこう総括する!」において、異なる立場の人と合意形成を行いながら建設的な議論を行う方法を学んだ。この学習の振り返りから、異なる立場を想定することや異なる立場の意見を聞いたり読んだりすることの重要性を認識している学習者が多数いること、また、異なる立場が考えうる活動への意欲が高まった学習者のいることがわかった。

・事前アンケートでは、「根拠の適切さや確かさを意識し、確認しているか」という質問には90%以上が肯定的な回答をしたが、「根拠の適切さや確かさの確認方法について、自分なりの方法を持っているか」という質問には28%が否定的な回答をした。確認はしているが、その方法が確立はしていない学習者もあり、自己流のものになっている可能性もある。

・ICT機器を使って収集した情報を自分の考えの根拠として用いる際、比較的安易に入手できる情報のみを使用する傾向にあり、その情報の客観性や信頼性を確認し、再度情報収集を行うといった姿は見られない。この部分については、上記の学習者の意識と実際の学習の姿に乖離があると考えている。

(3) 指導について

・総合的な学習の時間では、第2学年から現在にかけて大分県の多くの市が直面している人口減少について触れ、考える場を設定している。その題材を共有することで、学習者の興味関心を引き、これまでの学習を活かすこともできるという意欲喚起につながると考えている。また、対象者が異なる二つの案に絞り、どちらがより確実に効果的かを考えることにより、異なる立場の想定がしやすくするとともに、自分の立場を説得するイメージを持ちやすくする。

・一つひとつの情報の発信元や発信時期など情報の出典に関することによる信頼性の確認はもちろん、数値により傾向を捉える方法や複数の具体例によって確実性を示す方法など、情報の特徴や情報と情報の関係において根拠として適切かも考えさせたい。

・上記のことを考えさせるために、読み手を説得しうる根拠の「強さ」に着目させ、班ごとに自分たちで集めた情報の上位を決定し、理由とともに交流する。上位に決定した理由から、より強い根拠のために必要となる情報の客観性や信頼性について学び、自身が収集した情報が根拠として強いものになっているかを考えさせる活動を行う。

単元プランシート(国語科3年)

実施時期 5月

単元名	私は、〇案を推薦します！	
単元の目標	相手を説得するために必要となる客観性や信頼性の高い根拠の選択とその引用の工夫を、2つの案のどちらかを推薦する文を書くことを通して、行うことができる。	
評価 規 準	知・技	①情報の信頼性の確かめ方を理解し、使っている。
	思・判・表	①目的や意図に応じて、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にしている。 (書くこと一ア) ②資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫している。 (書くこと一ウ)
	主体	①目的や意図に応じて、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にしようとしている。 ②表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えをわかりやすく伝わる文章になるように工夫しようとしている。 ③学習目標に照らして学習の状況を把握し、今後の課題について具体的に示している。

時間	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
I	〇人口減少が進むH市に提出されたA案・B案について知り、どちらの案を推薦するかを決め、その理由を考える。			
2～4 (本時3)	〇自分の考えを支える根拠となる情報を収集する。 4つの情報を集め、情報源を明記する。			
	〇収集した情報について、根拠としての「強さ」で上位になるものはどれかを考える。		① ワークシート	① 観察
	〇再度、情報を収集し、説得するために伝えたいことを明確にする。	① ワークシート	① ワークシート	① 観察・ワークシート
5～7	〇今回推薦文として使用する構成について知る。		② ワークシート	② 観察
	〇収集した情報の中から引用するものを決め、学習した構成のどの部分に位置付けるのか考える。		② ワークシート	② 観察・ワークシート
	〇推薦文を書く。 〇お互いに違う案を選んだ人に読んでもらい、相互に評価し合う。			
8	〇ワークシートおよび推薦文を用いて、単元の振り返りを行う。			③ 振り返りシート
外	定期テスト	①テスト		

評価基準(思考・判断・表現に①について)	
B	A
個々の情報について、出典に関することや情報の特徴に着目して客観性や信頼性を確認し、伝えたいことをまとめている。	Bに加え、情報同士の関係に着目して客観性や信頼性を確認し、伝えたいことをまとめている。

様式3 本時の指導

(1) 本時の位置づけ(3/7)

(2) 題材「〇案を推薦します!」(自分の考え)を支える根拠を探そう。

(3) 本時のねらい

自分の考えを支える根拠となる情報の客観性や信頼性を、同じ立場の人の収集した情報と比較したり、異なる立場の人と交流したりする活動を通して、確認することができる。

(4) 展開

時間	学習活動	学習内容及び指導上の留意点	評価
3	1. 単元のめあてと本時の学習内容を確認する。	〇単元のめあてと本時の学習内容を確認する。 単元のめあて 人口増加のためには〇案を採用する方がよいことを説得しよう。 〇説得するためには、「より強い根拠」が必要であることを確認し、本時は自分の収集した情報が「より強い根拠」になっているかを吟味する時間であることを確認する。 課題 自分が収集した情報は、相手を説得できる「より強い根拠」になっているのか。	
10 10	2. 同じ立場のグループで、収集した情報を比較し、より強い根拠となると考えるもの一つを決め、全体で交流する。 3. 異なる立場から見て、その根拠で納得できるか考える。	〇収集した情報を比較させる。 〇相手を説得できるより強い根拠をなるもの一つとその理由をホワイトボードに書かせる。 〇異なる立場から見て、より強い根拠といえるか考えさせる。 [気づかせたいこと] ・出典の確認(発信元、発信時期など) ・情報の特徴に関すること アンケートや調査データ…主体、目的、対象者の人数 事例…今回のH市と重ねることが可能か(市の規模) ・情報同士の関係に関すること そのデータや事例だけで根拠にできるか(複数のデータの必要性)	
15	4. 自分の収集した情報は相手を説得できるより強い根拠になるか考える。	〇自分の収集した情報について、相手を説得するという目的を達成できるより強い根拠になっているか確認させる。 〇その際、なぜ、そのように判断したのか考えさせる。	集めた材料(情報)の客観性や信頼性を確認することができる。(書くこと—ア)
5	5. 考えを交流する。	〇数名を指名する。 まとめ〈予想される考え〉 【なっている】 ・発信元が、国の機関であり、調査した時期も2023年と近年のものを使用している。 ・根拠⑩のデータと根拠②のデータを関連させることで、ファミリーより単身者の方が転居しやすく、また移住に対して前向きな人が多いことを示すことができている。 【なっていない】 ・発信元が個人のブログであり、第1次情報に触れられていない。 ・成功事例を一つしか挙げておらず、必ず成功するという確実性の証明にはなっていない。	

	6. 振り返りをする。	○次の授業は、情報収集を行い、説得するために自分の伝えたいことを明確にする時間であることを伝え、自分の課題を考えさせる。	
	振り返り 収集した情報がより強い根拠となる情報だったか確認できたか。 次回の授業での自身の課題は何か。		

(5) 本時の評価基準

B	A
個々の情報について、個々の情報について、出典に関することや情報の特徴に着目して客観性や信頼性を確認している。	B に加え、情報同士の関係に着目して客観性や信頼性を確認している。

(6) 学習記録計画

TV 座席の確認【2活】	めあて 人口増加のためには○案を採用する方がよいことを説得しよう。 課題 自分が収集した情報は、相手を説得できる「より強い根拠」になっているか。 「グループごとの根拠」 判断のポイント ・ 出典に関すること ・ 情報の特徴に関すること ・ 情報同士の関係に関すること まとめ なっている → なっていない →
-----------------	---

